



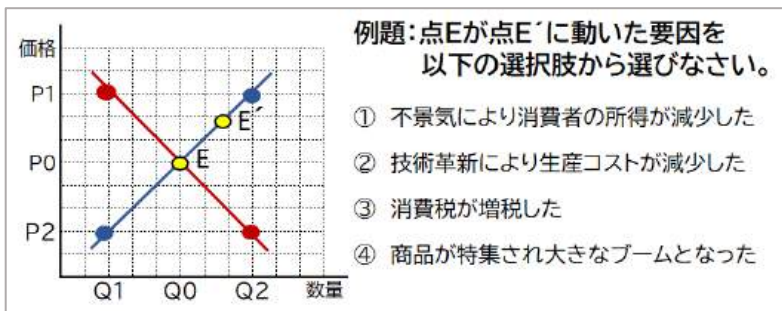
(I) グラフ問題の基本パターン

POINT 需給グラフの問題パターンは2つ!

- ① **グラフを動かす問題** → 要因が提示され、需要・供給曲線が左右どちらに動くかを解く問題
- ② **点から値を読み取る問題** → グラフ上の点を読み取り、数量や価格の関係を示す問題

まずはこの2パターンの問題を確実に解けるようにすること。
具体的な問題を紹介しながら、解き方のポイントを解説していきます。

■ パターン① グラフを動かす問題



点Eが点E'に動くということは、
[需要 ・ 供給] 曲線が[左 ・ 右]へ動く
ということを意味する

①~④の中からその動きをする要因を選ぶ

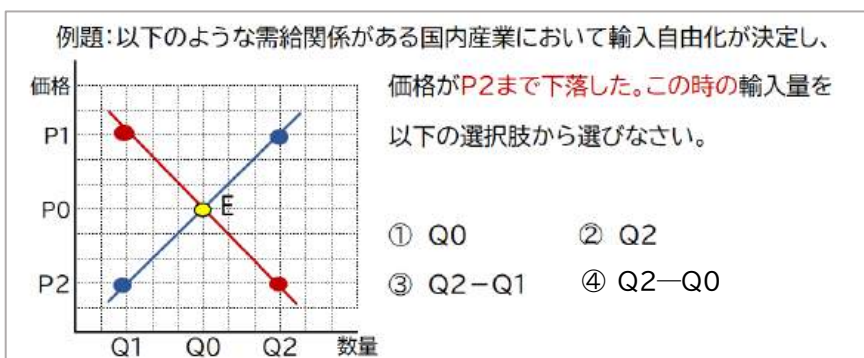
ポイントとしては、深く考えすぎないこと! 例えば、④の商品が特集され大きなブームになったという要因は、「需要が増加する」要因なので、「需要曲線が右へ動く」という答えになるが、深読みすると混乱する。「ブームに便乗して、店側も沢山売りだす?」とか「沢山売れるから仕入れが高くなる?」とか、深く考えすぎないように注意しよう。

直接影響を与えるのが買い手なのか、売り手なのかとシンプルに捉えることが重要!

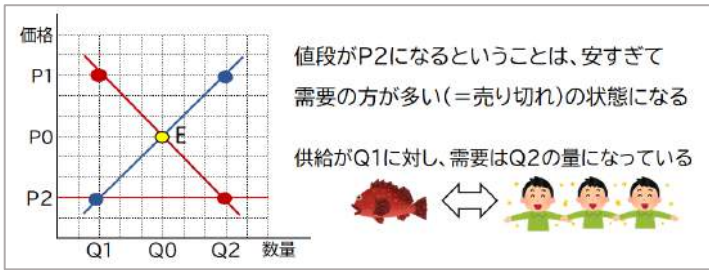
どちらのグラフを動かすかが分かれば、後は**増加するなら右・減少するなら左**に動かす。グラフを動かす問題においてよく出る要因を表にまとめた。確認しておこう。

需要曲線が			供給曲線が		
左へ(需要減)	右へ(需要増)		左へ(供給減)	右へ(供給増)	
衰退	流行(選好)	人気	増	生産コスト	減
減	所得	増	強化	規制	緩和
増税	納税額	減税	上昇	労働者の賃金	下落

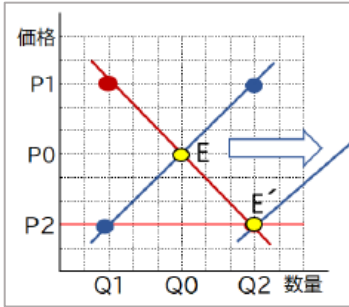
■ パターン② 点から値を読み取る問題



このようなパターンの問題はグラフを動かすことはない。PやQという文字に惑わされず、グラフが何を示しているのかを丁寧に読み解いていくことが重要。



問のような需要が供給を上回ることを [1] といい、逆に供給が需要を上回ること(売れ残り)を [2] という。



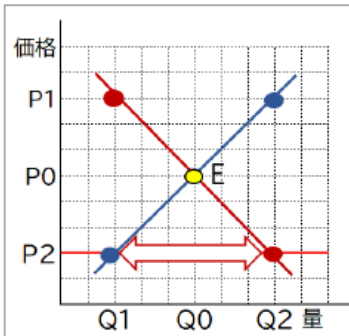
つまり、国内市場では以下のような関係であったが、国内の商品だけでは需要が不足しているため、足りない分を輸入品でカバーしたという流れである。



国内市場のみ

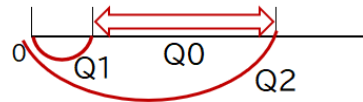


輸入品でカバー



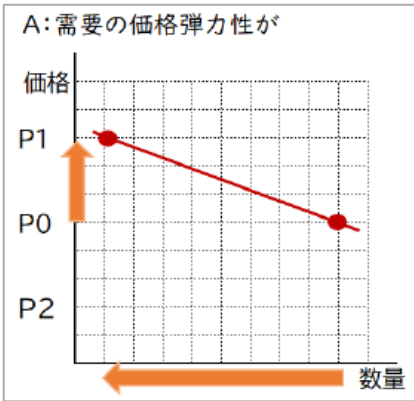
あとはこの数量を適当な値で示せばよい。

部分を示す選択肢は である。



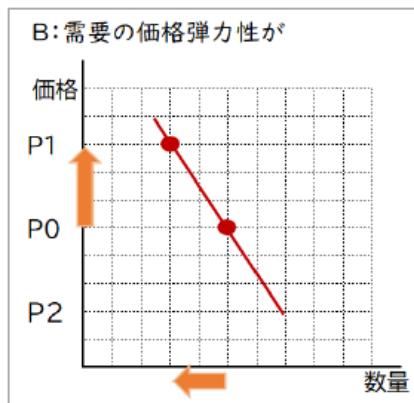
この類の問題はやや難しいので要注意！

(II) 価格弾力性



何かしらの商品が P0 から P1 に値上がりしたとする

傾きが緩やかな A のグラフは、値上げに対して大きく需要量が減少していると読み取れる。このように、価格の変動に対して需要量の変動が大きい状態を、「需要の価格弾力性が []」という。



これに対し、傾きが急な B のグラフは、値上げに対しても A ほど需要量に影響していない。このように、価格の変動に対して需要量の変動が小さい状態を、「需要の価格弾力性が []」という。

需要の価格弾力性が大きい財…宝石や高級食品などの []
バターなどの [] のある商品

需要の価格弾力性が小さい財…塩やお米などの []
ガソリンなどの [] の無い商品

供給の価格弾力性についても考え方は同様

供給の価格弾力性が大きい…工業製品のように、値段によって生産量を調整しやすい商品
供給の価格弾力性が小さい…農作物や住宅など、短期間で供給量を増減できない商品



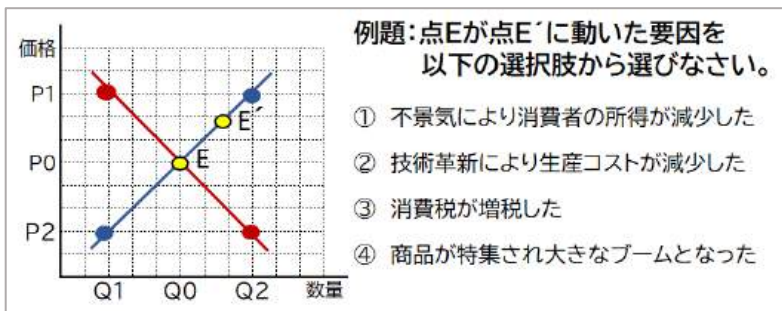
(I) グラフ問題の基本パターン

POINT 需給グラフの問題パターンは2つ!

- ① **グラフを動かす問題** → 要因が提示され、需要・供給曲線が左右どちらに動くかを解く問題
- ② **点から値を読み取る問題** → グラフ上の点を読み取り、数量や価格の関係を示す問題

まずはこの2パターンの問題を確実に解けるようにすること。
具体的な問題を紹介しながら、解き方のポイントを解説していきます。

■ パターン① グラフを動かす問題



点Eが点E'に動くということは、
[需要]・供給]曲線が[左・右]へ動く
ということを意味する

①~④の中からその動きをする要因を選ぶ

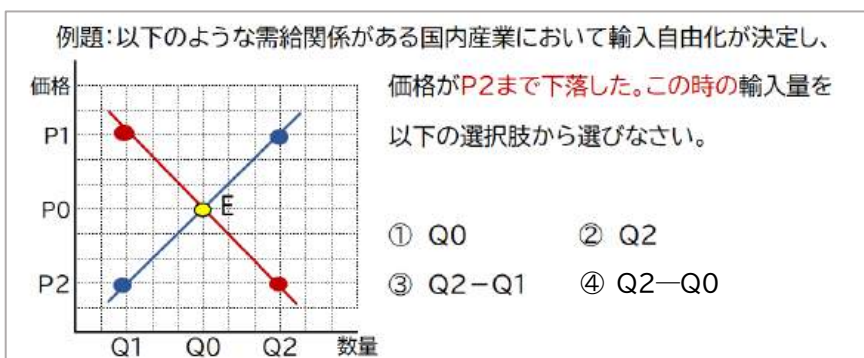
ポイントとしては、深く考えすぎないこと! 例えば、④の商品が特集され大きなブームになったという要因は、「需要が増加する」要因なので、「需要曲線が右へ動く」という答えになるが、深読みすると混乱する。「ブームに便乗して、店側も沢山売りだす?」とか「沢山売れるから仕入れが高くなる?」とか、深く考えすぎないように注意しよう。

直接影響を与えるのが買い手なのか、売り手なのかとシンプルに捉えることが重要!

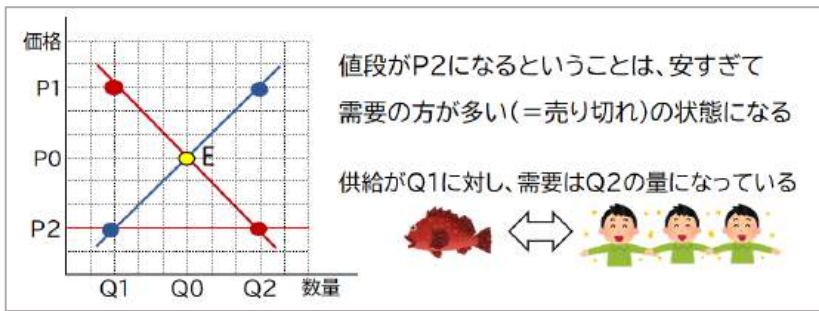
どちらのグラフを動かすかが分かれば、後は増加するなら右・減少するなら左に動かす。グラフを動かす問題においてよく出る要因を表にまとめた。確認しておこう。

需要曲線が			供給曲線が		
左へ(需要減)	右へ(需要増)		左へ(供給減)	右へ(供給増)	
衰退	流行(選好)	人気	増	生産コスト	減
減	所得	増	強化	規制	緩和
増税	納税額	減税	上昇	労働者の賃金	下落

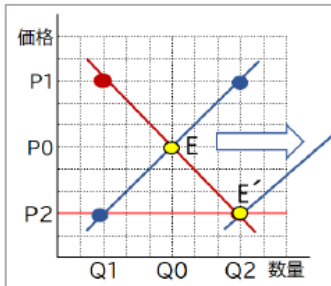
■ パターン② 点から値を読み取る問題



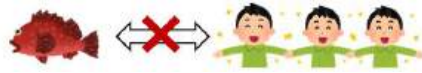
このようなパターンの問題はグラフを動かすことはない。PやQという文字に惑わされず、グラフが何を示しているのかを丁寧に読み解いていくことが重要。



問のような需要が供給を上回ることを [1 **超過需要**]といい、
逆に供給が需要を上回る(売れ残り)を [2 **超過供給**]という。



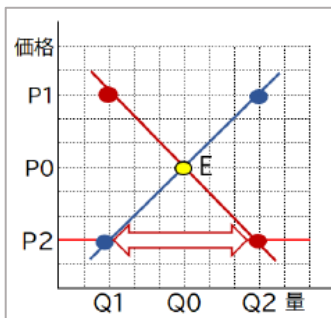
つまり、国内市場では以下のような関係であったが、国内の商品だけでは需要が不足しているため、足りない分を輸入品でカバーしたという流れである。



国内市場のみ

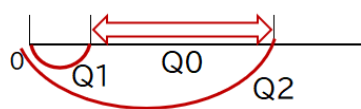


輸入品でカバー



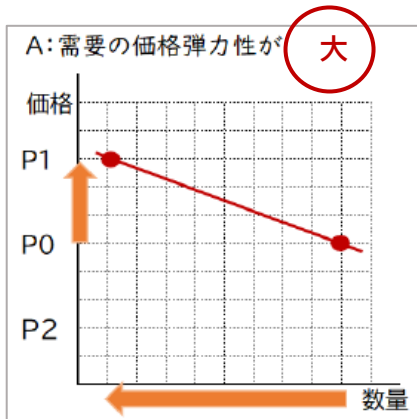
あとはこの数量を適当な値で示せばよい。

部分を示す選択肢は③のQ2 - Q1である。



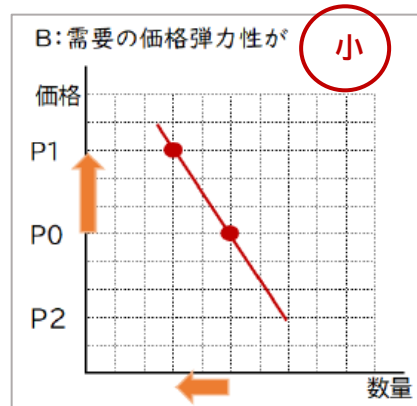
この類の問題はやや難しいので要注意！

(II) 価格弾力性



何かしらの商品が P0 から P1 に値上がりしたとする

傾きが緩やかな A のグラフは、値上げに対して大きく需要量が減少していると読み取れる。このように、価格の変動に対して需要量の変動が大きい状態を、「需要の価格弾力性が [**大きい**]」という。



これに対し、傾きが急な B のグラフは、値上げに対しても A ほど需要量に影響していない。このように、価格の変動に対して需要量の変動が小さい状態を、「需要の価格弾力性が [**小さい**]」という。

需要の価格弾力性が大きい財…宝石や高級食品などの [**ぜいたく品**]
バターなどの [**代替財**] のある商品

需要の価格弾力性が小さい財…塩やお米などの [**生活必需品**]
ガソリンなどの [**代替財**] の無い商品

供給の価格弾力性についても考え方は同様

供給の価格弾力性が大きい…工業製品のように、値段によって生産量を調整しやすい商品

供給の価格弾力性が小さい…農作物や住宅など、短期間で供給量を増減できない商品